

## 木造天海僧正坐像

この像は、喜多院で住職も勤めた天海大僧正（1536～1643）の最晩年の姿を造立した肖像彫刻です。像の底にある柄に記された墨書銘から、亡くなる2か月前、108歳の姿ということが分かる大変貴重な資料です。



像の底にある柄

檜材と考えられる寄木造りで、極彩色で目に玉眼がはめ込まれています。頭巾を被り、法服の上に袈裟と横被をかけ、袴の上にも裳をつけ、右手で扨子（ほつす）を握り、曲録（まがくろく）に座り、足元に沓を置くこの像の姿は、天台宗僧侶の最高の礼服姿で、重要な法要の際に着用されるものです。

作者の大仏師式部卿は江戸仏師と考えられ、この像は彼の代表作といわれる程、精緻な造りで大変出来栄えのよい作品です。

この天海像は、普段、喜多院の慈眼堂に安置されて見ることができませんが、10月14日(土)から博物館で開催する特別展で展示されます。ぜひ、この機会に、めったに見ることのできない天海像を間近で見せてみてください。

## ■家康没後400年記念特別展

徳川家康と天海大僧正「家康の神格化と天海」

期間：10月14日(土)～12月3日(日) 経費：入館料

## ソバ



時代劇や落語にもしばしば登場し、昔から人々に親しまれ、愛されてきたソバ。最近では、趣味でソバ打ちを楽しむ方も増えています。

ソバ好きが高じて川越で30年以上もソバを作り続けてきたという鈴木元さん（砂久保）。ソバは雨風に弱いため、種をまいてから収穫まで、2か月



ソバの花と花粉を運ぶミツバチ

半ほどは土寄せや肥料を与えるなどして、強い株を育てる必要があります。収穫後も種を乾燥させ、石やゴミを取り除き、石臼でひ

と、手間暇をかけてソバを提供しているそうです。

ソバ打ちもされる鈴木さんに打つときのこつを聞くと「同じ産地、同じ品種のソバ粉で打つことが大事」とのこと。粉の硬さや伸び、乾燥具合にむらが少ない、細く長いきれいなソバが打てるそうです。

鈴木さんのソバ粉は、あぐれっしゅ川越で購入できるほか、自宅では自ら打った生ソバを、金・土・日曜日限定で1日30食予約販売しています。

間もなく香り高い新ソバの季節。今年は、ソバ粉から手打ちして味わってみませんか。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜  
サツマイモ、ブロッコリー、ホウレンソウ、ナス、米、コマツナ、カブ、ゴボウ、ダイコン、サトイモ



今年（10月14日(土)・15日(日)）に行われる川越まつり。ユネスコ無形文化遺産登録後初の開催で、21台の山車が参加する予定です。迫力ある曳つかわせや囃子などを楽しんでみてはいかががでしょうか。

やってきました。越まつりがをみせる川に、ましが一番のにぎわい。配が本格的になる、秋の気配が本格の訪れを感じさせます。



## 衣

替えが始まり、長袖と上着を着る機会が増え、季節はすっかり秋。まちを歩いていると、キンモクセイのほんのりと甘い香りがより一層秋の訪れを感じさせます。

編集後記

どんぶり

広報川越1400

発行日／平成29年10月10日(毎月10日・25日発行)

発行／川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>  
市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171

編集／広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

リサイクル適性

Fontworks  
UDFont

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。

☎224-5495 ☎225-2171